

2008年度 第86回 関西学生サッカーリーグ（後期・第2節）

9/27（土） 舞洲運動広場（球技場）

第1試合 関学大 vs 近畿大

後期初戦では5-0と快勝した関学大と0-3で敗戦した近畿大。一進一退の序盤を過ぎ、攻撃にリズムが出始めた関学大はMF⑨金尾和泰、25 高橋宏次郎がチャンスをつかむ。しかし35分、先制は近畿大。FKをMF⑦枝本雄一郎が鮮やかに関学大ゴールに突き刺した。

しかし、「チャンスがないわけじゃなかった」とFW⑪桑原透記が振り返るように関学大に焦りはしない。そしてわずか10分足らずで、その桑原がMF 28 阿部浩之のパスで左サイドを突破、GKの動きを見切って右足で右スミに決め同点とした。

「前半に追いつけたのが大きかった」という阿部の言葉通り、関学大は後半開始から逆転を目指し攻め込み、金尾のシュートがポストを叩く。その後も近畿大にほとんどチャンスを与えず圧倒した関学大だが、近畿大も懸命に粘りゴールを割らせず、74分には枝本のシュートがバーを叩き関学大は冷や汗をかく。

「引き分けてくれると思ったが・・・」と近畿大・田中監督が残念がる瞬間が訪れたのは89分。近畿大DFのGKへのヘッド・バックパスを勘良く狙ったのは関学大・阿部。「GKが見えた」という阿部のアクロバティックなシュートが関学大に貴重な勝ち点3をもたらした。

（文：サッカーライター 貞永 晃二）

関学大 2 $\left\{ \begin{matrix} 1-1 \\ 1-0 \end{matrix} \right\}$ 1 近畿大

得点(アシスト)者
44分 11 桑原(28 阿部)
89分 28 阿部

得点(アシスト)者
35分 7 枝本

第2試合 びわこ大 vs 大院大

びわこ大 3 $\left\{ \begin{matrix} 1-0 \\ 2-0 \end{matrix} \right\}$ 0 大院大

得点(アシスト)者
37分 25 篠部(13 平野)
50分 25 篠部(7 小池)
68分 13 平野

後期初戦で近畿大に快勝し、2位につけるびわこ大は、この試合でも攻撃的な守備で中盤を支配し大院大の自由を奪い、早い攻めを繰り返し仕掛けた。しかし「失点を減らす」「前半はガマン」という大院大・藤原監督の狙いは奏功していた。しかし37分、びわこ大FW⑬平野甲斐が右サイドを突破し、ゴールラインまで食い込みマイナスに戻すとFW 25 篠部拓真が飛び込みヘッドで決め先制し、その後も大院大を押し込んだまま前半を終えた。

攻めるしかなかった大院大は、後半交代カードを2枚切り、DF⑥馬場悠をボランチに上げ、その馬場が惜しいシュートを放つなど攻勢に出る。しかし関学大は50分、MF⑦小池遼のパスでオフサイドぎりぎりに飛び出した篠部拓真が今度は巧みなシュートでGKを破り大院大を突き放してしまふ。

2点を追う大院大は60分過ぎにFW 53 四ヶ浦寛康のシュートなどチャンスを作り再度ペースを握るが、得点にはつながらない。そして68分、びわこ大は先制点をアシストした平野が今度は右サイドから強引なドリブルで持ち込みダメ押しの3点目を決め、その後もペースを明け渡すことなく逃げ切って連勝、初敗戦の阪南大を抜き首位に立った。

（文：サッカーライター 貞永 晃二）

9/28（日） 鶴見緑地球技場

第1試合 関西大 vs 大教大

則即、ト位の京産大にまさかの敗戦を喫した関西大。インカレ出場権、優勝戦線を考えると、もう一つも落とせない。最下位の大教大は前節阪南大と善戦し、関西大相手にどこまで食らいつつか期待した一戦だった。

試合が動いたのは前半35分。均衡を破ったのは、関西大だった。復活したエースFW⑪阪本晃司がPKを右隅に決め、前半を1-0で折り返す。後半に入ると、なんとしても勝ちたい大教大が幾度となく猛攻を仕掛け、MF⑬田中俊一が、FKのこぼれ球を決め、同点に追いつく。その後、関西大は不意なファウルで主将のMF 21 大屋翼が退場。波乱の展開となるが、残り7分にDF 26 清水孝太が右サイドから上げたクロスがそのままゴールに吸い込まれ、2-1と再び引き離し、関西大が後期1勝目を手にした。試合後、決勝点を決めた清水は「自分のミスから失点してしまったが、取り返せた。ゴールは勝ちたい気持ちが運んでくれた。」と語った。

戦力、個人の技術の差はあるものの、試合内容を見るとどちらが勝ってもおかしくない試合であった。大教大の入口豊監督も「前節の阪南戦に続いて、この試合でも選手たちは手ごたえを掴んだはず」と話す。攻撃の精度、勝利への執念など僅かな差が、勝負の決め手となった。

（文：フリーライター 久住 真穂）

関西大 2 $\left\{ \begin{matrix} 1-0 \\ 1-1 \end{matrix} \right\}$ 1 大教大

得点(アシスト)者
35分 17 阪本
83分 26 清水(18 佐藤)

得点(アシスト)者
74分 16 田中

第2試合 阪南大 vs 京産大

阪南大 0 $\left\{ \begin{matrix} 0-0 \\ 0-1 \end{matrix} \right\}$ 1 京産大

得点(アシスト)者
75分 8 櫛田

前節2位だった関西大を破り、大金星をあげた京産大。対するは、敗退してしまったものの天皇杯で社会人と戦うことで、また一歩経験を積んだ阪南大。前期、両者の対戦は、1-1と引き分け。決着をつける戦いを制したのは、京産大だった。

序盤は前節に引き続き、京産大が予定通り引いて守り、前半を無失点で抑えた。また初先発の 54 桑田康平を基点に、随所にサイドから突破口を作った。一方の阪南大は、主将西田の故障などFW陣が固定されず連携を取れていない要因となり、パスミスも目立つ。また、センターバックの吉川、久野が出場停止など、「苦しい試合になるのはある程度分かっていた」とDF③野田紘史は話したが、復帰したMF⑥井手口正昭が退場した金の変わりに急遽サイドバックに入るなど、プランの変更を余儀なくされた。そして重苦しい流れを断ち切ったのは、京産大。75分、懸念していたDFラインのミスから、京産大MF⑧櫛田一斗がGKと接触覚悟で走り込み、値千金のゴールを決めた。

「気持ちいい勝利。泥臭いけど、あれがうちの点です。」と古井裕之監督は笑顔で振り返った。このゴールが決勝点となり、京産大が2連勝。阪南大は、続いていたリーグ連勝記録がここでストップ。明暗が分かれる試合となった。

（文：フリーライター 久住 真穂）

第1試合 姫獨大 vs 立命大

試合前の両監督のコメント。姫獨大の昌子力監督は、「相手に的を絞らせないような戦い方をしたい。」と意味深長。立命大の米田隆監督は「丁寧にパスを繋いでサイドから崩す。それが出来なければ負け。」と腹を括っていた。

立命大は、昨季から今季の春先まで採り入れていた、屈強なFWにボールを預けるサッカーを今年のチームにはそぐわないという事で、方法論を変化させてここまでやって来た。この試合は、その立命大のパスサッカーが非常に上手くはまったと言える。

左右両サイドはもちろん、中央からも崩しにかかり、姫獨大の守りを混乱に陥れた。2-0という試合結果だけではなく、スタッツを観ても圧倒している。やはり右SB 44 伊庭徹矢と左SB 28 前野貴徳のサイドアタックは相手DFを苦しめ、そこに配球するMF⑭内田昂輔と⑩山口卓也も自由に仕事をしていた。鮮やかな攻めを可能にしたのは、高速プレスの効果でもあるだろう。とにかく相手中盤の選手への囲い込みが速い。姫獨大に攻撃らしい攻撃をさせなかった。この日は気温も低く、運動量も落ちず、プレスは機能し続けた。素直に立命大の完勝と書ける内容であった。

(文:サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

姫獨大 0 $\begin{Bmatrix} 0-1 \\ 0-1 \end{Bmatrix}$ 2 立命大

得点(アシスト)者
9分 オウンゴール
89分 27 内藤

第2試合 同大 vs 桃山大

同大 0 $\begin{Bmatrix} 0-0 \\ 0-2 \end{Bmatrix}$ 2 桃山大

得点(アシスト)者
50分 14 宮澤(2 中山)
89分 29 斉藤

中盤のキーマン、⑩楠神順平と⑧荒堀謙次の野洲コンビが怪我でベンチスタートと苦しい陣容の同大。しかし、1回生で期待のMF 33 早坂寛太がスタメン。ベンチにも、ユース年代のファンなら当然知っているFW 35 松田純也やDF 34 佐川雅也が控えており、分厚い陣容を垣間見せた。

試合内容は、お互いに、ここを落とせばインカレが遥か遠のくこともあり、慎重に入り過ぎた。とにかく、相手DFラインの裏にボールを落とす攻撃の応酬。ノーリスクで、相手のミス待ちの展開が45分続いてしまった。

試合が落ち着き始めた後半。桃山大は同大の左サイドを狙う。同大の左サイドは、攻撃においてストロングポイントだが、その分、どうしても穴は空く。後半5分、そのスペースをDF②中山修志が突き、フリーで上げたクロスにFW⑭宮澤龍二が決めて先制。追い付くために、同大は、荒堀と楠神を投入し、圧倒的に攻めに掛かるが、桃山大ゴールは割れず。最後は、カウンターの加点した桃山大が首の皮一枚、生き残った。

(文:サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

～第2節の風景～

気持ちで決めたゴールで決勝点! ◆清水 孝太 選手(関西大・3年)◆



9月28日(日) 鶴見緑地(関西大・大教大)
■ 撮影:フリーライター 久住 真穂 ■